

第4章 環境保全のための基盤的施策の推進

第1節 環境影響評価【みどり自然課】

山梨県においては、事業の実施に際し公害の防止及び自然環境の保全について適正な配慮がなされるよう、平成2年9月に制定した「山梨県環境影響評価等指導要綱」に基づき、事業者の理解と協力により環境アセスメント制度を運用してきた。

しかしながら、環境問題を取り巻く社会の関心や環境行政に対する県民ニーズが大きく変化する中で、環境アセスメント制度が担うべき役割が変化すると同時に、環境影響評価法等による「法的枠組み」が構築されつつあったことから、「山梨県環境影響評価条例」(平成10年3月27日山梨県条例第1号)を公布した。

条例には「制度の公平性と透明性」を主たる課題とし、県民意識調査、インターネットによる意見募集、県民からの意見聴取会、環境審議会における審議など、多方面からの意見を吟味して、次に掲げる基本的事項を盛り込んだ。

- ・地方の独自性のある環境アセスメント制度を制定
- ・環境影響評価法と同様にスクリーニングから始まる手続を導入
- ・恵まれた自然に配慮した対象事業種類、規模、評価項目を採用
- ・環境アセスメントの各段階での住民意見提出機会の確保
- ・方法書段階からの公聴会の実施
- ・事業の実施中や供用後のモニタリング調査の導入
- ・環境情報を科学的に整理分析するため「技術審議会」を知事の諮問機関として設置
- ・時間的経過による環境アセスメント手続の再実施手続を導入

また、「山梨県環境影響評価条例施行規則」(平成11年2月22日山梨県規則第2号)においては

- ・環境アセスメント手続における県民、事業者や市町村長、知事の役割
- ・公聴会の運用
- ・対象事業の種類の拡充
- ・対象事業の規模の引き下げ 等

環境影響評価法に定める制度や、従来の山梨県や他県の制度に比べ、手続のあり方や対象事業の種類、規模において全国的にも充実した制度となるよう詳細を定めた。

「山梨県環境影響評価条例」及び「山梨県環境影響評価条例施行規則」は、いずれも平成11年6月12日施行しており、山梨県の環境アセスメント制度は、「環境首都・山梨」にふさわしい制度として新たなスタートをきった。

環境アセスメント制度とは

大規模な開発事業を行おうとする時に、その地域の環境にどのような影響を与えるのかを、事業者自らが県民や関係する市町村長の意見を聴きながら調査（現地調査や文献調査による環境の状況把握）、予測（調査結果と事業内容から環境に与える影響を予測）により明らかにするとともに、評価（環境に与える影響を小さくするための保全措置の検討）の結果を、環境の保全についての適正な配慮として事業の実施に反映させるための手続です。

表2-4-1 対象事業一覧（概要）

事業の種類	環境影響評価法		環境影響評価条例・施行規則		
	第一種事業	第二種事業 第一分類事業	第二分類事業	第三分類事業	
1 道路の新設及び改築の事業	高速道路 新設	全事業が第一種事業の対象	-	-	-
	" 改築	車線数の増加部分 1 km以上	法の対象外	-	-
	首都高速 新設	4車以上が第一種事業対象	-	-	-
	" 改築	4車以上増加部分 1 km以上	法の対象外	-	-
	一般国道等 (国・県・市町村道) 新設	4車以上10km以上	4車以上7.5 km以上	4車以上6 km以上、又は2車以上10km以上	4車以上4 km以上、又は2車以上8 km以上
" 改築	改築部分4車以上10km以上	改築部分4車以上7.5 km以上	改築部分4車以上6 km以上又は2車以上10km以上	改築部分4車以上4 km以上又は2車以上8 km以上	
" 農業用道路 新設			車線5.5 m以上10km以上	車線5.5 m以上8 km以上	
" 改築			車線を2.75 m以上増加(増加後車線5.5 m以上) 10 km以上	車線を2.75 m以上増加(増加後車線5.5 m以上) 8 km以上	
大規模林道 新設	幅員6.5 m以上20km以上	幅員6.5 m以上1.5 km以上			
" 林道 新設			車線4 m以上10km以上	車線4 m以上8 km以上	
" 改築			改築後車線4 m以上10km以上	改築後車線4 m以上8 km以上	
2 ダム・堰及び放水路の新築及び改築の事業	ダム・堰 新築	湛水面積100ha以上	湛水面積75 ha以上	湛水面積40 ha以上	湛水面積30 ha以上
	湖沼水位調節施設 新築	水底の面積100ha以上	水底の面積75 ha以上		
放水路 新築	100ha以上の土地の形状変更	75 ha以上の土地の形状変更			
3 鉄道及び軌道の建設及び改築の事業	新幹線 建設	全事業が第一種事業の対象	-	-	-
	普通鉄道 建設	1.0 km以上	7.5 km以上	5 km以上	
	" 改良	改良部分1.0 km以上	改良部分7.5 km以上	改良部分5 km以上	
新設軌道 建設	1.0 km以上	7.5 km以上	5 km以上		
" 改良	改良部分1.0 km以上	改良部分7.5 km以上	改良部分5 km以上		
4 飛行場及び施設の設置又は変更の事業	飛行場 設置	2,500 m以上	1,875 m以上	法の第一種第二種以外のもの	
	" 変更	延長後2,500 m以上	3,75 m以上延長(延長後1,875 m以上)	3,75 m以上延長(法の第一種第二種以外のもの)	
陸上ヘリポート 設置			救急活動用除く陸上ヘリポート)		
5 電気工作物の設置又は変更の工事の事業	水力発電所 設置	出力30,000 kw以上	出力22,500 kw以上	出力10,000 kw以上	出力8,000 kw以上
	" 変更	出力30,000 kw以上の発電設備の新設を伴う変更	出力22,500 kw以上の発電設備の新設を伴う変更	出力10,000 kw以上である発電設備の新設を伴う変更	出力8,000 kw以上である発電設備の新設を伴う変更
	火力発電所 設置	出力150,000 kw以上	出力112,500 kw以上	出力20,000 kw以上	出力16,000 kw以上
	" 変更	出力150,000 kw以上の発電設備の新設を伴う変更	出力112,500 kw以上の発電設備の新設を伴う変更	出力20,000 kw以上である発電設備の新設を伴う変更	出力16,000 kw以上である発電設備の新設を伴う変更
送電線路 設置			電圧170,000 v以上		
" 変更			送電線路の変更(3 km以上)		
6 廃棄物処理施設の設置並びにその構造及び規模の変更の事業	一般・産業廃棄物最終処分場 設置	埋立処分面積3.0 ha以上	埋立処分面積2.5 ha以上	埋立処分面積1.0 ha以上	
	" 変更	3.0 ha以上増加	2.5 ha以上増加	1.0 ha以上増加	
	ごみ焼却施設 設置			1時間当たり処理能力合計8 t以上	
	" 変更			1時間当たり処理能力合計8 t以上増加	
	し尿処理施設 設置			1日当たり処理能力合計100 k l以上	
" 変更			1日当たり処理能力合計100 k l以上増加		
産業廃棄物の焼却施設 設置			1時間当たり処理能力合計8 t以上		
" 変更			1時間当たり処理能力合計8 t以上増加		
7 公有水面の埋立及び干拓の事業	公有水面の埋立	埋立干拓区域50 haを超える	埋立干拓区域40 ha以上	埋立干拓区域20 ha以上	埋立干拓区域10 ha以上
	干拓				

事業の種類	環境影響評価法		環境影響評価条例・施行規則		
	第一種事業	第二種事業	第一分類事業	第二分類事業	第三分類事業
8 土地区画整理事業	土地区画整理法に規定する土地区画整理事業	施行区域面積100ha以上	施行区域面積75ha以上	施行区域面積60ha以上	施行区域面積50ha以上
9 住宅団地の造成事業	新住宅市街地開発法に規定する新住宅市街地開発事業	施行区域面積100ha以上	施行区域面積75ha以上	施行区域面積30ha以上	施行区域面積15ha以上
10 工業団地の造成事業	首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律に規定する工業団地造成事業	施行区域面積100ha以上	施行区域面積75ha以上	施行区域面積30ha以上	施行区域面積15ha以上
11 都市基盤の整備事業	新都市基盤整備法に規定する新都市基盤整備事業	施行区域面積100ha以上	施行区域面積75ha以上	施行区域面積30ha以上	施行区域面積15ha以上
12 流通業務団地の造成事業	流通業務市街地の整備に関する法律に規定する流通業務団地造成事業	施行区域面積100ha以上	施行区域面積75ha以上	施行区域面積30ha以上	施行区域面積15ha以上
13 下水道終末処理場の建設事業	下水道終末処理場新設 " 変更			敷地の面積が10ha以上又は計画処理人口10万人以上 敷地面積10ha以上増加又は計画処理人口10万人以上増加	敷地の面積が5ha以上又は計画処理人口5万人以上 敷地面積5ha以上増加又は計画処理人口5万人以上増加
14 土石又は砂利の採取事業	土石等の採取事業			事業の用に供する区域面積20ha以上	事業の用に供する区域面積10ha以上
15 墓地又は墓園の造成事業	墓地又は墓園の造成事業			敷地の面積が20ha以上	敷地の面積が10ha以上
16 学校用地の造成事業	学校用地の造成事業			敷地の面積が30ha以上	敷地の面積が15ha以上
17 レクリエーション施設の設置及びその用地の造成事業	レクリエーション施設の設置及びその用地の造成事業			敷地の面積が50ha以上	敷地の面積が25ha以上
18 工場又は事業場の建設事業	工場又は事業場の建設事業			1時間当たりの燃焼に係る原料若しくは燃料中の炭素量が6,000kg以上、又は1日当たりの排水量が10,000立方メートル以上	1時間当たりの燃焼に係る原料若しくは燃料中の炭素量が5,000kg以上、又は1日当たりの排水量が8,000立方メートル以上
19 その他施行規則第三条で定める事業	その他の宅地の造成の事業(8から12の項、15から17の項に掲げるものを除く。)			施行区域面積30ha以上	施行区域面積15ha以上

- (注) 1、環境影響評価法の第一種事業、第二種事業欄が「空白」の事業は、本県独自の対象事業。
2、「 - 」部分は、環境影響評価法の「第一種事業」が総ての規模を対象。
3、「 」部分は、環境影響評価条例では設定しないこととした部分。

表2-4-2 山梨県環境影響評価等指導要綱の実績

事業の種類	事業名	事業規模	実施主体	実施時期	備考
住宅団地	東大月ニュータウン開発事業	面積：73.0ha	東日本旅客鉄道(株) (株)エス・イ・ランド・システム	H.4.2～ H.5.5	第2種事業 H.10.5造成完了
住宅団地・ 工業団地	米倉山ニュータウン造成事業	面積：44.7ha	山梨県土地開発公社	H.6.3～ H.6.12	第2種事業 工事中中断中
下水道終末 処理場	桂川清流センター建設計画	面積：11.4ha 計画処理人口： 163千人	山梨県	H.8.3～ H.8.11	第2種事業 工事中
レクリエー ション事業	サンパーク明野第2期計画	面積：101.6ha	湘南観光開発(株)	H.9.10～ H.10.3	第2種事業
住宅団地	本栖土地開発	面積：75.5ha	富士急行(株)	H.10.6～ H.11.2	第2種事業
第2種事業に準じて手続きを実施					
廃棄物の 処理施設	明野クリーンセンター(仮 称)建設事業	面積：8.6ha	(財)山梨県環境整 備事業団	H.10.6～ H.11.2	第2種事業対 象規模10ha未 満

表2-4-3 国の要綱に基づく環境影響評価の実績

事業の種類	事業名	事業規模	実施主体	実施時期	備考
高速道路	中部横断自動車道増穂双葉 線(増穂町～白根町間)	8 km	建設省関東地方 建設局	H.2.6～ H.3.3	建設省要綱 工事中
高速道路	中部横断自動車道白根双葉 幹線	7 km	山梨県	H.2.8～ H.3.3	建設省要綱 工事中
高速道路	中央自動車道富士吉田線改 築(上野原～大月市)	2車線増築 21 km	建設省関東地方 建設局	H.2.8～ H.3.3	建設省要綱 工事中
水力発電所	葛野川発電所	160万kw	東京電力(株)	H.3.1～ H.3.10	通産省要綱 H.10.5完成
高速道路	高規格幹線道路富沢増穂線	46.4 km	建設省関東地方 建設局	H.8.7～ H.8.10	建設省要綱 測量中
一般国道	西関東道路一般国道140 号(山梨市～甲府市間)	4車線 6.2km	山梨県	H.8.11～ H.9.4	建設省要綱 工事中

表2-4-4 県と事業者との協定に基づく環境影響調査の実績

事業の種類	事業名	事業規模	実施主体	実施時期	備考
リニアモー ターカー実 験線	リニアモーターカー山梨実験 線	延長：42.8 km	東海旅客鉄道(株) (財)鉄道総合技術研究 所 日本鉄道建設公団	H.2.7 ～H.2.9	H.9.4実験開始 24.4 km未着工
送電線路	葛野川線建設事業	50万V 延長：19.0 Km	東京電力(株)	H.7.9～ H.7.12	H.10.11完成

第2節 環境科学研究所【環境科学研究所】

環境科学研究所は、本県の将来を見据え、予見的、予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本姿勢として、平成9年4月に発足し、「研究」、「教育」、「情報」、「交流」のそれぞれの分野における事業を進めている。

また、オープン以来、県内外からの多くの利用者があり、幅広く活用されている（表2-4-5）。

表2-4-5 環境科学研究所 来館者数

《平成14年度》

（1日平均：約139人）

区分	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
一般	12,520人	11,435人	7,303人	2,255人	33,513人
団体	6,477人	3,388人	5,254人	683人	15,802人
計	18,997人	14,823人	12,557人	2,938人	49,315人

注）一般 = 個人・家族等

団体 = 学校・各種団体等（事前に連絡のない学校・各種団体のグループを含む）

これまでの業務実績の概要は、次のとおりである。

1 研究活動

「自然環境研究部」、「環境健康研究部」及び「地域環境政策研究部」の3部の各研究部門において、それぞれの研究者が国内外の研究機関と連携しながら、中長期的な視点から研究として取り組む「プロジェクト研究」、研究者が各専門分野において基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに緊急の行政課題に対応するために取り組む「特定研究」などを進めており、その成果が着実に生み出され、積み重ねられている。

研究の進捗状況は、表2-4-6、表2-4-7 のとおりである。

2 環境教育

環境教育部門では、平成14年度には、約4万9千人の利用者を受け入れ、環境問題を地球規模で考えたり、身近なことから実践することの大切さを学習する「環境教室」、「こども環境講座」、「環境映画会」、「身近な環境調査」、「地球環境観察会」や、「多様な生物の世界 ～ 」等の企画展示など、広範な環境教育事業を展開した（表2-4-8）。

表2-4-6 環境科学研究所 研究進捗状況（プロジェクト研究）

H15.3.31 現在

	研究テーマ	研究期間	研究概要	現 状
プロジェクト研究	山梨の自然がもたらす快適性に関する研究	H12～15	森林や温泉などの自然資源が人にもたらす快適性を生理学的、心理学的手法を用いて明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・森林や温泉のもたらす生理心理的效果を解析。 ・スギ花粉症の減感作療法に関する動物モデルを作成し、スギ花粉症に伴う鼻粘膜症状をスギ葉精油が緩和することを確認した。 ・森林浴の糖尿病改善効果に関する動物実験を実施。 ・温湯による部分浴の生理心理効果について実験を行った。
	山梨県の水質の地域特性と健康影響に関する研究	H13～16	山梨県各地の水質の物理化学的特性を把握し、水質の地域特性を明らかにする。 水に含まれる微量成分や水の飲用そのものに着目して、水と健康の関係を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・微量元素バナジウムを多く含む富士山地下水を糖尿病マウスに飲ませたが、血糖値低下効果は認められなかった。富士山の水に含まれるバナジウム以外の成分についても着目し、健康との関係を研究している。 ・水に溶解している窒素化合物の安定同位体比の測定が可能となった。 ・湖の水質をリモートセンシングによって定量的に把握する手法を開発している。
	森林による地球温暖化ガスの吸収効率に関する研究	H14～17	全県的な森林の炭素収支モデル化のため、基礎となるさまざまな森林における炭素収支パターンを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・遷移段階の異なる4ヶ所を調査地として設定した。（本栖湖畔露出溶岩、剣丸尾アカマツ林、青木ヶ原ヒノキ・ツガ林、大室山麓落葉広葉樹林） ・青木ヶ原ヒノキ・ツガ林と大室山麓落葉広葉樹林に50m×50mの永久方形区を設置し、植生調査を行った。それぞれのサイトにリタートラップを設置し、リターの回収を開始した。 ・富士北麓地域の炭素収支パターン解明のため、4ヶ所の調査地を設定し、植生調査を行った。 ・リモートセンシングデータを用いた森林のバイオマス定量、炭素収支推定方法を研究している。
	急激な気温変化が人の健康に及ぼす影響に関する研究	H14～17	急激な気温変化に伴う「温度環境ストレス」が人の健康に及ぼす影響を与えるのか、疫学的に把握し、動物モデルや人被験者を用いて生理学的、心理学、疫学的に解明し、より安全で快適な環境温度の指標を提言するとともに、健康の保持や予防について提言する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の熱環境に関する現場測定とアンケート調査を実施して、労働者の心理的、生理学的な状況を把握する準備を完了した。 ・ラットの腹腔内に麻酔下でテレメーターの発振器を手術的に埋め込む方法を確立し、体温計測テレメータシステムを正常に作動させて行動中のラットより無線で体温を測定できる状態を確立した。 ・コンピュータを使った知的作業プログラムを作成して、高温及び低温環境下での実験を人工気象室で、人被験者を用いて行った。 ・人工気象室の温度変化を周期的に変化させるプログラム作りに着手した。

表2-4-6 環境科学研究所 研究進捗状況（プロジェクト研究）

H15.3.31 現在

	研究テーマ	研究期間	研究概要	現 状
プロジェクト研究	富士山の火山活動に関する研究	H14～18	富士山の火山活動の現状把握のために、低周波地震観測と水位・水温観測を行う。 富士山の長期的な火山活動の把握のために、ボーリングコアの解析を行う。 富士山の活動に伴う環境変動解析を行う。 富士山地形の微少変動をリモートセンシングにより解析する。	<ul style="list-style-type: none"> 富士山の低周波地震の観測を目的とした地震計を県水産技術センター忍野支所に設置した。 忍野地域の地震計により、データの連続観測を可能にした。 忍野地域における地震計設置に伴い、採取されたボーリングコアについて、その構成を明らかにし、既存の他地域のコア試料との比較を行った。 人工衛星（RADARSATが平成14年度に観測したSAR合成開口レーダー）データを用いて、地形情報の抽出を行った。
	富士山の自然生態系の循環機構に関する研究	H14～18	富士山を特徴づける自然生態系の構造と維持機構を解明する。また、対象とした自然生態系の広がりや過去からの変遷を明らかにする。 富士山の自然生態系として原生林と半自然草原を選択してその動物相解明への調査を行う。 リモートセンシングにより、自然生態系の分布と過去からの変遷を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> 富士山を特徴づける自然生態系を抽出し、半自然草原とヒノキ・ツガ林を共通調査地として設定した。 共通調査地に調査用方形枠を設置し、植生調査を実施した。 チョウ類についてもモニタリング調査を行い、種組成を調べると同時に利用している植物との関係を調べた。 生息している哺乳類を自動撮影カメラで記録した。 人工衛星観測による富士北麓のリモートセンシングデータを収集した。 衛星データを用いた樹種分類のため、樹種分類項目の設定と地上調査地点の選定を行った。

表2-4-7 環境科学研究所 研究進捗状況（特定研究）

H15.3.31 現在

	研究テーマ	研究期間	研究概要	現 状
特定研究	高原地域の環境が人の心と体に与える効果について	H13～14	高原地域に滞在することの生理心理効果を解析する。 高原地域での運動の効果を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> 高原地域の温湿度が自律神経機能に与える影響を明らかにした。 運動に伴って体内で発生する活性酸素（酸素毒）の測定を行った。 高原と低地とに短期滞在する効果を比較し、高原の低い気圧が、不安軽減作用を持ち、副交感神経系の反射に影響することを明らかにした。 運動に伴って発生する活性酸素による遺伝子への傷害は、低地と比べ高原で少ないことを見出した。

表2-4-7 環境科学研究所 研究進捗状況（特定研究）

H15.3.31 現在

	研究テーマ	研究期間	研究概要	現 状
特 定 研 究	野生動物による農作物の被害防止に関する研究	H12～15	特に、果樹の被害に注目し、その実態を把握し農作物被害の発生の原因を究明し、防止対策の提言を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査により果樹被害の実態調査を実施。 ・果樹園に赤外線センサー式自動撮影カメラを設置し、出現動物、時期、頻度を把握。 ・イノシシの防護柵の効果について、調査した。 ・農作物被害増加の原因として、耕作放棄地の在り方を検討した。
	地域の景観と調和した色彩に関する研究	H14～16	山梨県景観条例に基づく公共事業及び大規模建築物に対する色彩選定の指導・助言に活用するため、山梨県の景観における色彩配置の特徴を明らかにすること、さらに、人工構造物の色が風景の受容に与える影響を明らかにすることを通じて、景観と調和する色彩の選定・評価の手法を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府市中心市街地区から高根町清里地区までの景観概況調査を行った。 ・景観概況調査により、本県の景観の色彩的調和に大きく影響している要因として、建築物への汎用デザインの普及による外観の平板化及び色彩の一律化、色彩選定の自由度の増大などを抽出した。 ・甲府市中心市街地及び周辺において、建築物の色彩、色彩輝度及び景観写真の同時取得を行う詳細調査などを開始した。
	中山間地域における地域環境資源の多面的・持続的な活用に関する研究	H14～16	中山間地域を対象に、地域環境資源（自然・文化資源）の多面的な機能を把握し、持続的に活用していく方法を明らかにし、エコミュージアム構想の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・早川町を対象地域として選定し、既存統計資料を用いて地域特性を把握した。 ・地域住民への聞き取り調査及び現地調査から、生業活動及び自然資源利用の実態と変遷を明らかにした。 ・空中写真の分析から、過去における土地利用構造を明らかにした。 ・地域環境資源に関する情報を、各種資料及び聞き取り調査から収集・分類するとともに、地理的分布を明らかにするため、デジタル情報として地図上にプロットする作業を開始した。 ・エコミュージアムの先進事例に関する情報を各種資料から収集し、問題点について整理した。

表2-4-8 環境教育事業実績

事業名	H 14 実績	備考
環境教室	団体を対象として随時開催	
やまなし環境映画会	H14. 5/ 3～ 5 8/11～18 8/10、10/20 (特別編)	・優れた環境映画の上映
こども環境講座	2回 (各1～2日間)	・自然や生き物とのふれあい等をテーマに開催
おやこ環境講座	2回 (各1日)	・ものづくりを通して自然に親しむことを目的に開催
身近な環境調査	111校参加 (小・中学校)	・大気の汚れ具合、チョウの分布、サクラの開花調査
地域環境観察会	3回	・地域の身近な自然などの観察会
環境科学講座	2回	・研究員等を講師に開催
企画展示	H14. 4/27～ 6/16 多様な生物の世界 「背骨のある仲間たち」 6/29～ 8/18 多様な生物の世界 「自然を支える仲間たち」 8/25～ 9/16 自然原画展 「地球の仲間たち」 9/21～10/27 多様な生物の世界 「森ときのこ」	

3 環境情報

環境情報センターでは、環境に関する情報の収集提供を行う中核的施設として、図書・ビデオ等の充実、各種コンピュータネットワークを整備するとともに、「ニューズレター」の発行など、研究所の広報活動にも力を注いだ。

(1) 環境情報センター蔵書数等 (H15.3.31現在)

・蔵書 11,722 冊 ・雑誌 522 タイトル ・ビデオ、C D 660 点

(2) 利用実績

区分	利用者数	貸出図書数	ビデオ利用	調査相談
平成14年度	15,529 人	2,223 冊	668 本	150 件

4 交流

環境をテーマに、県民や国内外の研究者との幅広い交流を図っており、表2-4-9 に示すとおり学術的な交流事業を実施した。

また、ホール、会議室等を交流の場として、環境関連団体や環境事業の開催に提供を行っている。

表2-4-9 環境科学研究所の交流事業

名 称	開 催 日	主 催 等
環境研フォーラム'2002	H14. 8/25	<主催> 研究所
国際シンポジウム2002 テーマ - 生体微量元素 - 11/ 1(金)・・・ 学術講演会(英語) 11/ 2(土)・・・ 公開講座(日本語)	11/ 1 ~ 2	<共催> 国際シンポジウム実行委員会 研究所 理化学研究所

第3節 森林総合研究所【森林総合研究所】

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立された。その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応している。

1 試験研究

森林の持つ環境保全機能、木材生産機能を始めとする多面的機能を、より高度に発揮させるための調査、研究、技術開発を行う「森林環境研究部」、再生可能資源である木材や、きのこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立に取り組む「資源利用研究部」の2部6科体制により、幅広い行政課題に対応している。

平成14年度に取り組んだ試験研究課題は表2-4-10のとおりである。

2 研修

「企画指導部」では、林業従事者や後継者、また将来の担い手となる青少年を対象に技術研修を行い、地域林業や森林教育の中核的指導者となるよう人材養成を行っている。

平成14年度の実績は表2-4-11のとおりである。

表2-4-10 平成14年度実施試験研究課題一覧表

研究目標	部門	研究課題	期間
森林資源の造成と 管理技術の確立	育 林 育 種	バイオテック利用による効率的苗木生産技術の開発	H11~20
		マツノザイセンチュウ抵抗性品種の育成に関する研究	H12~16
		生態遷移の解明による亜高山帯林の施業方法の確立	H5 ~15
		長伐期施業に対応する森林管理技術の開発	H11~15
		多様な広葉樹の育成・管理技術の確立	H12~16
		施業林における植物種多様性とその保全を目指した森林管理技術の開発	H11~15
		人工林において多様な機能を発揮させる管理技術の開発	H13~17
		県内産トウヒ属の育成技術の確立	H14~17
		異なる植栽本数に応じた施業方法の検討	H14~17
森林環境保全技術 の確立	森 林 保 護	広葉樹造林地の病虫害防除	H11~15
		オオクワガタ、オオムラサキ等の棲む豊かな里山づくりに関する研究	H13~17
		幹腐朽病の被害実態の把握とその対策に関する研究	H13~17
	環 境 保 全	森林気象の実態把握と酸性降下物等の森林への影響に関する研究	H5 ~15
		森林の持つ水源涵養機能調査と水収支に関する研究	H5 ~15
		富士北麓の火山性堆積土地域の緑化方法に関する研究	H11~15
森林資源活用による 活性化	特 用 林 産	菌根性きのこの安定生産技術の開発	H8 ~15
		新たなきのこ栽培資材の開発と廃菌床の利用法の開発	H12~16
		森林環境の指標生物としての菌類に関する研究	H5 ~15
		山菜類の優良種苗の育種に関する研究	H12~16
	木 材 加 工	カラマツ材等地域材の横圧縮変形による圧密化処理技術の開発	H14~18
		アカマツを利用した高機能性LVLの開発	H13~17
		新建築基準法に対応する木質系難燃・準不燃材料の開発	H14~16
		一木質系炭化物を複合化した木材繊維セメントボードの開発一	
		外構木材の劣化予測に関する研究	H11~15
	機 械 技 術	外構木材のための新たな劣化診断基準の開発	H13~17
		長期育成循環施業等に対応した高性能林業機械化等作業システムの開発	H14~18
共 同 研 究	ツキノワグマの餌資源としてのミズナラ堅果落下量の時空的变化の解析 ー野生動物との共存を考慮した森林管理手法の開発ー	H13~14	
	山地森林流域における水・物質の貯留・流動と森林影響の解明	H14~16	
受 託		酸性雨等森林被害対策受託事業	H12~16
		森林生態系モニタリング調査事業	H9 ~18
		富士スバルライン沿線緑化試験	S45~
		炭素吸収源データ収集システム開発事業	H13~
植 物 園		山菜類の栽培技術に関する研究	H14~18

表2-4-11 1 専門研修（対象：県、市町村及び森林組合職員 ほか）

研修教科	内 容	講 師	実施日	参加者数
林業機械	小型車両系建設機械（整地 運搬、積み込み用及び掘削用）	(株)コマツ甲信事業部 小出峰雄	H14.4.25 H14.4.26	8
林業機械	伐木造材に係わる特別教育	森林総合研究所 齋藤寛 主任専門技術員	H14.5.20 H14.5.21	3
林業機械	草刈り記取り扱い	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.5.23	3
森林土木	治山林道研修	治山林道課担当	H14.5.23	36
造林	造林補助事業	森林整備課森林育成担当職員	H14.5.31	50
林業機械	機械集材装置運転	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.6.18	8
森林保護	保安林実務	治山林道課 保安林担当職員	H14.7.10	34
森林教育	森林インストラクター入門	森林インストラクター 植松光正、安藤義樹	H14.7.31	20
森林計画	森林施業計画	森林整備課計画担当職員	H14.9.26	56
特用林産	きのこの鑑定	森林総合研究所 柴田尚 主任林業専門技術員	H14.9.27	23
木材加工	木工の基礎	家具作家 外崎晃	H14.9.27	8
林業機械	1日で体験する 林業機械の操作	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.9.30	8
林業機械	林業用高性能機械の 概要と操作	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.10.16	4
普及指導	伐採の選木	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.10.29	18
林業機械	林内作業車を使用する 集材作業	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員	H14.10.30	2
造林	複層林施業	森林総合研究所 田中格 主任林業専門技術員	H14.11.1	15
林業機械	はい作業主任者技能講習	労働安全コンサルタント 功刀能文 森林総合研究所員	H14.12.11 H14.12.12	3
普及指導	県産材を使用した住宅建築	建築士 広瀬敏	H15.1.21	32
特用林産	森林組合の経営診断	森林組合連合会代表理事専務 神島薫	H15.1.27	16
森林経営	聴く人に分かりやすい 説明方法	地域開発コンサルタント 山浦晴夫	H15.2.13	8
森林保護	シカ被害と対策	東京農工大 古林賢恒	H15.2.21	41
木材加工	木質バイオマス	株式会社タクマ 野上春男 地球エネルギーシステム研究所 佐野寛	H15.3.11	81
普及指導	普及方法	富山県林業改良指導員 近藤純	H15.3.18	40
	計			517

2 基礎研修（林業教室）（対象：一般県民）

研修教科	内 容	講 師	実施日	参加者数
講演	山と自然と人々	星美智子	H14.5.12	34
作業実習	下刈	森林総合研究所 上野梅男 研修指導幹ほか	H14.6.9	30
視察	赤沢自然休養林	現地森林インストラクター	H14.7.14	31
作業実習	間伐	森林総合研究所 田中格 林業専門技術員ほか	H14.9.8	25
作業実習	高性能林業機械	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.10.27	16
作業実習	枝打ち	指導林家 天野和喜ほか	H14.11.10	18
作業実習	シイタケ植菌	森林総合研究所 柴田尚 林業専門技術員ほか	H15.2.8	21
講演	恩賜林について おこし	森林審議会委員 有井金弥	H15.3.8	21
計				196

3 技能者養成研修（対象：林業従事者）

研修教科	講 師	実施日	参加者数
小型車両系建設機械（整地、運搬、 積み込み用及び掘削用）	（株）前田製作所コマツ甲信事業部 小出峰雄	H14.4.25 H14.4.26	9
伐木造材に係わる特別教育	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.5.7 H14.5.8	11
林業架線作業主任者免許規定に 係わる講習	労働安全コンサルタント 功刀能文 森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.5.29 ～ H14.7.25	11
刈払い機取扱い作業	林業家 大坪章 森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.8.1	11
林内作業者を使用する集材作業	森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.10.30	11
はい作業主任者技能講習	労働安全コンサルタント 功刀能文 会長 森林総合研究所 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.12.20 H14.12.21	9
計			62

3 付属機関

富士吉田試験園

亜高山帯林の管理技術等に関する試験研究を行っている。

富沢林木育種園

スギ、ヒノキ等の優良種苗生産や品種改良に関する試験研究を行っている。

八ヶ岳薬用植物園

ハーブなどの薬用植物や特用林産の利用、栽培方法を研究し、一般に普及している。平成14年度の来園者は15,980人で、実施した研修の実績は表2-4-12のとおりである。

森の教室

展示室、工作室、図書コーナーなどの施設や森林科学講座、体験学習、木工教室などの各種イベントの開催により森林、林業について幅広い普及啓発を行っている。

平成14年度の来館者数は17,802人で、実施したイベントの実績は表2-4-13のとおりである。

表2-4-12 八ヶ岳薬用植物園の研修実績

研修区分	内 容	講 師	実施日	参加者数
野山の植物	山菜利用術	自然観察指導員 柴山裕子	H14.4.20	23
もっと知ろう薬草の世界	① 漢方薬編	薬剤師 須藤一	H14.5.3	13
もっと知ろう薬草の世界	② 民間薬編	薬剤師 須藤一	H14.5.4	17
山菜教室	やまなしの山菜教室	森林総合研究所 戸沢一宏 研究員	H14.5.12	16
ハーブ教室	ハーブ料理 旬の味わい	ハーブ 研究家 興石睦子	H14.6.29	22
山の幸教室	森の植物ウォッチング	森林インストラクター 安藤義樹	H14.7.6	20
ハーブ教室	暮らしの中で ハーブを活かそう	ハーブ 研究家 興石睦子	H14.7.14	23
体験教室	親子草木染め	森林インストラクター 安藤義樹	H14.8.8	20
基本講座	野草茶ブレンド	薬剤師 須藤一	H14.8.24	24
きのこ教室	きのこ採取鑑定会	森林総合研究所 柴田尚 研究員	H14.9.7	37
きのこ教室	あれこれキノコ 料理教室	管理栄養士 茅野しずか	H14.9.23	14
山の幸教室	親子栗拾い体験	森林インストラクター 安藤義樹	H14.9.20	74
体験教室	本格釜炭焼き体験	森林インストラクター 安藤義樹	H14.11.10	23
小 計				326
季節事業	ブルーベリー 摘み取り ジャム作り体験	八ヶ岳薬用植物園 安藤義樹、堀内順子	H14.7	175
季節事業	栗拾い体験	八ヶ岳薬用植物園 安藤義樹、堀内順子	H14.10	118
小 計				293
計				619

表2-4-13 森の教室イベント実績

研修教科	内 容	講 師	実施日	参加者数
やさしい森の科学講座	植物観察と山菜	清里の森管理公社専務 斉藤敬文 森林総合研究所戸沢一宏研究員	H14.5.19	25
	森の昆虫教室	森林総合研究所 大澤正嗣 研究員	H14.10.12	27
	天然きこ教室	森林総合研究所 柴田尚 研究員	H13.7.15	45
	炭焼き体験	森林総合研究所 名取潤 研究管理幹	H14.12.1	21
	キノコ植菌体験	森林総合研究所 柴田尚 研究員	H15.2.16	39
小 計				157
森の体験教室	枝打ち体験と 森のお菓子作り	指導林家 天野和善 齋藤寛 林業専門技術員ほか	H14.9.28	29
	間伐と 押し花教室	森林総合研究所 田中格 研究員 ヴォーグ社インストラクター 山岸一恵	H15.3.2	19
小 計				48
屋外木工教室	プランター作り	森の教室、森林総合研究所職員	H14.4.13 H14.4.14	100
	電動糸のこ型抜き	森の教室、森林総合研究所職員	H14.10.19 H14.10.20	100
小 計				200
木工クラフト教室	スパイスボックス	森林総合研究所 鈴木泰仁 技能員	H14.6.16	30
	小鳥の餌台	森林総合研究所 鈴木泰仁 技能員	H14.8.8	28
	小枝で遊ぼう	森の教室職員	H14.8.21	53
	ブックエンド	森林総合研究所 鈴木泰仁 技能員	H14.9.16	26
	クリスマスリース作り	長坂町 野口キヨ子	H14.11.4	32
	つるを編む	長坂町 野口キヨ子	H13.11.24	21
	木工教室 &もちつき体験	森林総合研究所 鈴木泰仁 技能員	H15.1.12	31
小 計				221
計				626